

リーディングDXスクール事業【実践事例】

西脇市立西脇中学校（兵庫県）【指定校】

【取組内容】 学習進捗シートを活用した、考えの構築と深化

学習課題		個人目標		学び方の選択		進捗状況		★学習進捗シート			
【第2編 第2 ⑤聖徳太子と飛鳥文化】		【単元課題】 人類の誕生と古代の日本は、国の仕組みをどのように整えていったのか、自分の言葉で説明できる。						自らの思考を文章で表現			
課題・目標の確認		学びの振り返り		情報の収集		情報の整理・分析		まとめ/表現		自己評価	
学習課題	目標 (A・B・C)	誰と学ぶ?	教科書課題	情報の収集	情報の整理・分析	今の状況	反 映	参考になった考え方、意見の内容	振り返り	自己評価	
聖徳太子は、どのような「ねらい」をもって、国づくりを進めたのか	聖徳太子が目指した国づくりを大陸との関係から説明できる。	同じ考えの人	○	完了	完了	対話中	聖徳太子は推古天皇が即位すると蘇我氏と仏教の思想を取り入れ、冠位十二階、十七条の憲法を定めた。大化改新の百濟から仏教が伝わり聖徳太子は法隆寺を建てあつく信仰して十七条の憲法にも仏教を信仰せよと書いて、豪族たちも仏教を受け入れ自分の権威のシンボルとして寺院を建てた。	科書	聖徳太子は蘇我馬子とともに儒教や仏教の思想を取り入れ、冠位十二階や十七条の憲法などの制度をつくり天皇中心の国にすることが狙いだったことが分かりました。この時代の仏教は好意を治したり、先祖の冥福を祈ったりするための新しい宗教と教えられていたことを知りました。	103	○
聖徳太子は、どのような「ねらい」をもって、国づくりを進めたのか	聖徳太子が大陸の制度や文化・宗教を取り入れ、国づくりを進めたのねらいを説明できる。	違う考えの人	○	完了	作成中	作成中	聖徳太子は、天皇を中心とする国づくりをし、蘇我氏が信じていた仏教を十七条の憲法にいい、各地に広め、仏教を中心とする飛鳥文化を	教科書・先生	同じかったです。聖徳太子は、蘇我氏と天皇の子供で天皇を中心とする国づくりをし、蘇我氏が進行していた仏教を十七条の憲法に入れて	82	○
聖徳太子は、どのような「ねらい」をもって、国づくりを進めたのか	聖徳太子が大陸の制度や文化・宗教を取り入れ、国づくりを進めたのねらいを説明できる。	同じ考えの人	○	完了	完了	対話中	聖徳太子は蘇我馬子とともに儒教や仏教の思想を取り入れ、冠位十二階や十七条の憲法などの制度をつくり役人として天皇につかえるものがまえを示し、天皇中心の国にすることが狙いだった。	科書	聖徳太子は冠位十二階や十七条の憲法などの制度をつくり天皇中心の国にすることが狙いだったことが分かりました。この時代の仏教は好意を治したり、先祖の冥福を祈ったりするための新しい宗教と教えられていたことを知りました。	106	○
聖徳太子は、どのような「ねらい」をもって、国づくりを進めたのか	唐や唐、朝鮮半島の国々の影響を受けながら聖徳太子が目指した国を資料をもとに説明できる。	同じ考えの人	×	作成中			聖徳太子は、国の仕組みを整えるため冠位十二階の制度により身分を明確に表したり、十七条の憲法の二条の、仏法を敬う考えで、蘇我氏の仏教を信仰する考えが使われている。唐に留学僧や、留学生を送って、唐の文化をまねた。		蘇我氏は、天皇家と、自分の子供を結婚させ蘇我氏と、天皇家を、結びつけた。	36	○
聖徳太子は、どのような「ねらい」をもって、国づくりを進めたのか	唐や唐、朝鮮半島の国々の影響を受けながら聖徳太子が目指した国を資料をもとに説明できる。	自分で	△	完了	完了		唐の文化の影響で聖徳太子が冠位十二階を作り十七条の憲法を作った身分をはっきりさせた	科書	蘇我氏と天皇との関係が分かった	15	
聖徳太子は、どのような「ねらい」をもって、国づくりを進めたのか	聖徳太子が大陸の制度や文化・宗教を取り入れ、国づくりを進めたのねらいを説明できる。	違う考えの人	○	完了	完了	完了	聖徳太子は冠位十二階や十七条の憲法などの制度を作り天皇に使えるの構えなどを示し政治に取り組んでいることを示した。百濟から仏教が伝わり聖徳太子も仏教を信仰し法隆寺を建てあつく進んでいって、大和とその周辺地域の豪族たちも次第に仏教を受けていっていった	科書	今日の勉強で聖徳太子が遣唐使、遣唐使を送り中国とのつながりを結ぼうとしたし、百濟から仏教を伝えられたことが分かった。	59	○

振り返りシートをクラウドで共有した事で、他者の考えを参照し自分の思考と比較したり、再考できる。

誰と議論したのか、参考になった考え方をメモ

授業の振り返り

文字数
自己評価